

避難先の検討 / 避難場所・避難所

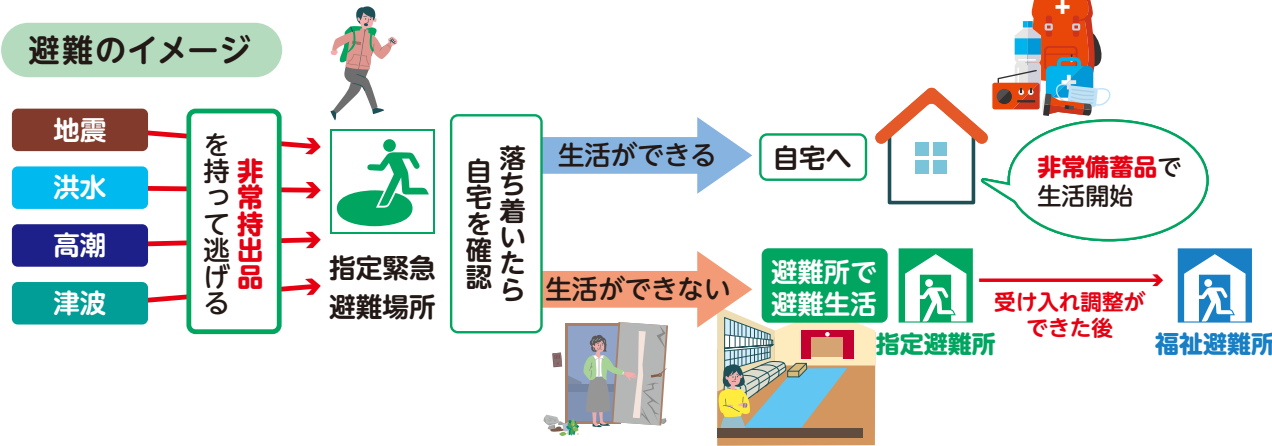
避難先の検討

災害が差し迫っていて、家屋内にとどまることが危険な状態になった場合は、落ち着いてすばやく避難する必要があります。

感染症が流行している状況では、不特定多数の人が集まる避難所などでの避難生活の感染拡大リスクが高まります。そこで、感染症による2次被害を防ぐため、また、風水害時に高齢者などが事前に避難する必要がある場合(*)など、避難場所に避難する以外の方法(分散避難)もご検討ください。具体的には以下のような方法が考えられます。

*: 事前避難が必要な場合…警戒レベル3相当以上の気象状況

避難のイメージ



避難場所・避難所について

指定緊急避難場所

- 災害が発生したときに、緊急的に避難して身を守るための場所です。どこの避難場所に避難してもかまいません。
- 一時的に避難をする場所なので、基本的に食事の提供はありません。非常食や毛布などを持って避難しましょう。
- 避難場所は、災害の種類ごとに指定していますので、災害状況に合わせて避難してください。また、災害の状況に応じて開設する場所を追加しますので、市からの情報を確認してください。

指定避難所

- 災害によって自宅などに戻ることができない場合に、避難生活を送る場所です。
- 災害の状況に応じて、開設する避難所を決定しますので、市からの情報を確認してください。

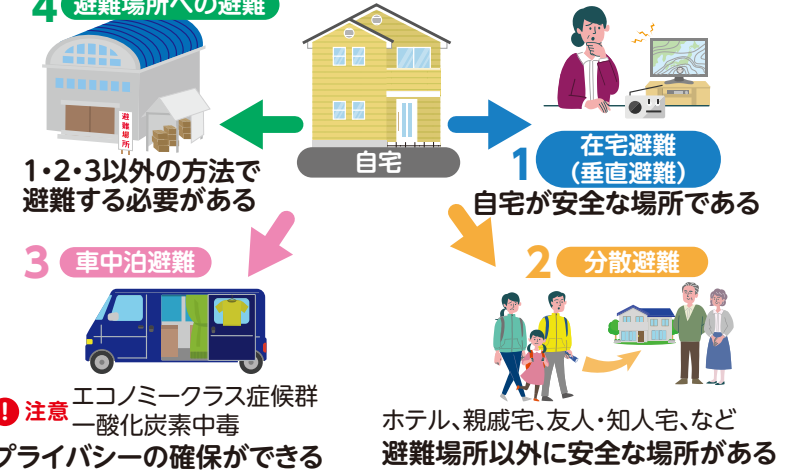
福祉避難所

- 災害によって自宅などに戻ることができない場合に、高齢者や障がいのある方、乳幼児など特別な配慮が必要な方が避難生活を送る場所です。
- 福祉避難所に避難を希望される場合は、まず、市内に開設されている避難所に避難した後、特別な配慮または必要性の高い方から優先的に福祉避難所へ移動することになります。

分散避難とは…

- 災害発生または発生のおそれがあるときに、自宅が安全な場合、自宅に留まる方法(在宅避難)
- 安全な地域に住んでいる親戚や友人・知人宅や宿泊施設などに避難する方法

4 避難場所への避難



避難のポイント

- 非常持出品はリュックサックにまとめ、身軽に行動できるよう持出品は最小限にしましょう。
- 家族の住所、氏名、連絡先などを記載した防災メモを持ちましょう。特に高齢者や子どもは、事前にメモを用意し、身に付けて避難しましょう。
- 避難前にはガスの元栓やブレーカーを切り、外出中の家族に「どこへ避難する」というような連絡メモを残しておくといいでしょう。
- 避難場所に避難するときは水や食料、常備薬、防寒対策グッズなどのほか、感染症対策に体温計やアルコール消毒液などを持っていきましょう。また、避難場所に行く前に検温とマスクの着用を徹底しましょう。